

## 卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	東京科学大学（東京工業大学）	整理番号	1906
プログラム名称	最先端量子科学に基づく超スマート社会エンジニアリング教育プログラム		
プログラム責任者	井上 裕嗣	プログラムコーディネーター	阪口 啓

### 卓越大学院プログラム委員会における評価

<p><b>〔総括評価〕</b></p> <p>S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p>
<p><b>〔コメント〕</b></p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、プレスクリーニングを通じて優秀な学生の応募を促す取組等による優秀な学生を確保する仕組みの構築、22名の海外アドバイザーによるグローバルメンタリング等により海外との交流が積極的に進められている点、66団体が参加する超スマート社会推進コンソーシアムを通じ産学連携の実践が実現できている点等により、プログラム構成・運営ともに高い水準を実現していることは高く評価できる。</p> <p>修了者の成長については、KPIも目標以上の成果をあげており、さらに、学生による国内外の主要な褒賞を含む受賞が累積44件と極めて多い点などが評価できる。一方、博士修了者数のKPIが未達であったため、目標値に達するように引き続き尽力されることが期待される。</p> <p>キャリアパスの構築については、本プログラムにより多様なキャリア形成ができたことは評価できる。特に外国人留学生の7割が日本企業・大学等に就職することとなったことは、今後の少子高齢化時代において、知のプロフェッショナルである留学生の日本定着のためのモデルとなりうるものとなり、大いに評価できる。また、留学生については、現行の入学者数で実現しているように日本人学生とおおよそ半分ずつとして、さらに様々な国からの学生を確保し、より多様性のあるものになることが期待される。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、優れた学位プログラムが構築されているとともに、資金調達においても確実な計画が立案されている。また、本プログラムは東京工業大学の採択プログラムとして始まったものだが、東京医科歯科大学との統合をプラスにして、現行の超スマート社会卓越教育課程は（医歯学看護学を含む）学位認定を行う全学横断の複合系コースにするなどの取組を行っている。東京科学大学として、医工連携、社会連携をさらに深めるとともに、リベラルアーツ教育の重要性をなお一層強化し、医歯理工系の新しい融合人材を輩出していくことが期待される。</p>